



# ツマジロクサヨトウの中国における 分布拡大と日本への侵入警戒

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
本部企画戦略本部研究推進部

まつ 村 まさ や  
松 村 正 哉

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
農業技術革新工学研究センター高度作業支援システム研究領域

おお つか あきら  
大 塚 彰

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
農業環境変動研究センター環境情報基盤研究領域・  
東京農業大学大学院農学研究科

よし まつ しん いち  
吉 松 慎 一

## はじめに

イネ、トウモロコシ、野菜等の重要害虫であるツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith) (英名は Fall armyworm, 省略形は FAW, 中国名は草地夜食蛾) は、チョウ目ヤガ科の1種であり、ハスモンヨトウ *Spodoptera litura* (Fabricius) やアワヨトウ *Mythimna separata* (Walker) と同様に長距離移動性を示すことで知られている。本種は南北アメリカ大陸で広く発生していたが、2016年にアフリカ大陸で発生が確認された後、2018年夏にはアジア地域で初めてインドで発生が確認された。2019年1月には中国で発生が確認された後、現在中国国内で急速に分布が拡大しており、日本への侵入が危惧されている。そこで、ツマジロクサヨトウの分類・形態および同定法、生態と長距離移動、中国における分布拡大の経緯、および今後の防除対策と課題について解説する。なお、本解説は2019年5月31日までの情報に基づいている。

## I 分類、形態および同定法

日本では、ツマジロクサヨトウと同じ *Spodoptera* 属には8種が知られている。農林有害動物・昆虫名鑑(日本応用動物昆虫学会, 2006)では、そのうちの4種、スジキリヨトウ *S. depravata* (Butler), シロイチモジヨトウ *S. exigua* (Hübner), ハスモンヨトウ, シロナヨトウ *S. mauritia* (Boisduval) が害虫種として掲載されている。これらのほかに、クシナシスジキリヨトウ *S. ciliium* Guenée

は海外で芝草の害虫として報告があったが、日本でも静岡県内のゴルフ場で芝草を食害することが確認された(廣森ら, 2003)。また、アフリカシロナヨトウ *S. exempta* (Walker) は2010年に南西諸島でイネ科牧草やサトウキビを食害し、日本で初めて害虫化した(吉松ら, 2011)。

成虫の前翅長は、*Spodoptera* 属の日本産の害虫種の中ではハスモンヨトウが最も大きく雄で14~17mm、ツマジロクサヨトウの前翅長は雄で10.5~15mm (POGUE, 2002) と、ハスモンヨトウよりやや小さい。また、両種とも雌のほうが雄よりやや大きい。ツマジロクサヨトウ雄成虫(図-1上)は翅頂部に明瞭な白紋を備えるが、ハスモンヨトウの翅頂部の白紋よりは小さい。雄成虫は、スジキリヨトウ、シロイチモジヨトウ、シロナヨトウ、クシナシスジキリヨトウ、アフリカシロナヨトウで



図-1 ツマジロクサヨトウの雄成虫(上)と雌成虫(下) 共にブラジル産(農研機構農業環境変動研究センター所蔵)

The Spread of the Fall Armyworm, *Spodoptera frugiperda* in China and a Precaution against its Possible Invasion of Japan. By

Masaya MATSUMURA, Akira OTUKA and Shin-ichi YOSHIMATSU

(キーワード: ツマジロクサヨトウ, 越境性害虫, 長距離移動, トウモロコシ)